

## 教父研究会の歩み

教父研究会は一九七六年秋、以下に掲げる趣旨で設立され、今日まで続けられてきた。

一九九一年の第五回研究会までは東京都立大学哲学研究室に、以後現在まで、聖心女子大学哲学研究室に事務局が置かれている。運営方針は当初のものがほぼそのまま踏襲されており、今回、年四回の研究例会の記録を本誌として刊行する運びとなった。

## 教父研究会設立趣意書

### 一、設立趣旨

- (1) 現代における形而上学、一般に広く、根源的な哲学思想が汲むべき不可欠な源泉の一つに教父の哲学・神学の思想があることをわれわれは認める。

本研究会はこの視点からする教父の哲学・神学の思想の研究を目的とする。

- (2) 中世の神学者、哲学者の思想も、それが教父の伝統につながる範囲において、教父の思想に含まれると考えることにする。

### 二、活動と運営

- (1) 年間四回の会員の研究報告と討論をもって本研究会の主要な研究活動とする。  
できれば、それらをまとめた研究成果の出版を意図する。
- (2) 本研究会の趣旨に賛同し、討論に実質的に参加して、本研究会の活動を擔うものを会員とする。
- (3) 本研究会の運営委員をさしあたり、今道友信、加藤信朗、泉治典、K・リーゼンファーとし、内、加藤を代表とする。
- (4) 本研究会の事務局をさしあたり東京都立大学哲学研究室に置く。
- (5) 通信費および雑費として、さしあたり、年額五〇〇円を会費とする。

以上

(一九七六年秋起草)